別　紙

評価の概要

１．研究開発五箇年計画　中間評価

・ 将来の研究課題として、どんなデータが国として必要とされ、何を収集、提供していくべきか等について検討するような政策的研究を進めるべきである。

・ プロジェクトマネージャが果たすべき役割である研究者個人と機関の間の的確なマネージメント、またそれに基づく研究成果の行政への反映が、より適切に機能するように、プロジェクトマネージャのあり方について検討すべきである。

２．平成 20 年度新規要求予定特別研究課題

（１）日本列島の地殻活動メカニズム解明の高度化に関する研究

・有効な課題である。小地域から大地域への整合性を取りながら進めるべきである。

（２）正確・迅速な地殻変動把握のための合成開口レーダー干渉画像の高度利用に関する研究

・社会的需要も高く有効な課題。陸域観測技術衛星「だいち」の後継機推進のためにも成果を期待する。

（３）地理空間情報の時空間化とその応用に関する研究

・国策で進めていくべき課題である。ただし、データの揃え方、応用方法等、細部が不明確な部分を検討するとともに、他分野との連携を取りつつ進めるべきである。

（４）合成開口レーダーによる地すべりの監視に関する研究

・有効な課題である。社会的なインパクトに注意して研究を進めるべきである。

（新規課題全体を通して）

いずれも今後の国土地理院の中核をなす課題である。国土地理院として大いに進めるべきである。